

歴史・文化

時を超え、

歴史と文化が息づくまち

香南市は、豊かな自然のなかで、古代から近現代に至るまで、多様な歴史と文化を育んできました。先人たちの営みは、文化財や伝統芸能として、今も地域に深く根付いています。海の恵みと山の文化が交差したこの地に伝わる貴重な文化財や史跡、そして時代を経て今に受け継がれてきた歴史をご紹介します。



時の証人

香南市には、先人から受け継いだ有形文化財が多く残されています。野市町の鬼田八幡宮に伝わっていた弥生時代の「銅剣」（国重要文化財）をはじめ、野市町の大日寺には、平安時代後期の作とされる「木造大日如来坐像」（国重要文化財）が、香我美町の恵日寺には、同じく国重要文化財の仏像3体が収蔵されており、この地で古から営まれてきた人々の生活をうかがい知ることができます。



地域で引き継がれる伝統と文化

香南市の文化を彩る伝統芸能も市内各地区で大切に受け継がれてきました。香我美町浅上王子宮での「山北棒踊り」（県保護無形民俗文化財）は、江戸時代に土佐藩主山内家の庇護を受けた奉納武術です。



さらに、神祭の際に五穀豊穡、悪疫退散を祈願し奉納される香我美町の「若一王子宮獅子舞」など、各地区に「おなばれ」と呼ばれる祭礼行列や、獅子舞、棒術などの伝統が今も息づいています。



▲若一王子宮獅子舞

▲山北棒踊り

鎌倉時代の念仏踊りを源流とする夜須町の「手結の盆踊り」（県保護無形民俗文化財）も、古くからの地域の出来事を伝える重要な文化です。

また、赤岡町は、幕末の土佐の絵師・弘瀬金蔵、通称「絵金（えきん）」ゆかりの地です。彼の描いた「旧赤岡町の土佐芝居絵屏風」23隻（県保護有形文化財）は絵金蔵で保管・展示されており、美しく妖しい独特の芸術性に触れることができます。

戦争遺跡と平和への願い

近現代の歴史において、香南市はアジア・太平洋戦争時代末期の本土決戦陣地があったことから、各地に戦争遺跡が残

されています。交通壕や旧海軍の砲台跡といった戦争遺跡が残されています。歴史の教訓を今に伝え、未来への平和の尊さを静かに語るこれらは、私たちが未来へとしっかりと引き継いでいかなければなりません。



▲震洋隊殉国慰霊塔

▲手結の盆踊り

▲土佐芝居絵屏風

▲夜須町千切砲台

地域史の探求拠点 香南市文化財センター

香南市の歴史と文化について深く知るための拠点施設です。市内の遺跡から出土した土器や石器類をはじめ、指定文化財の資料、民具、そして戦争遺産などを保護、一般公開しており、地域の歴史を体系的に学ぶことができます。常設展示・企画展示を随時開催しており、香南市の歴史に触れて考える貴重な機会を提供しています。



安岡家住宅

香我美町にある「安岡家住宅」は、国の重要文化財に指定されている江戸時代に建てられた建造物です。江戸時代後期の郷土屋敷の特徴を今に伝える貴重な建築であり、その重厚な造りは、当時の生活様式や地域の建築技術を映し出しています。



手結内港

江戸時代前期に、土佐藩家老の野中兼山の指揮のもとで建設された日本最古の掘り込み港湾。建設から400年近く長い年月を経た現在も漁船が係留され、現役の港として利用され続けています。

